

「今週の1枚」



アラカシ （ブナ科）

東アジアの暖温帯に広く分布し、四国でも一番普通に見られるカシである。やや乾燥した場所には多いが、立派な森林の主役になることは少ない。木炭の原料としてはシイより優良とされていたので、アラカシの純林仕立てが作られていた。

「どんぐり」とはクヌギの実のことであるが、ナラ・カシ類の果実（堅果）はどれもドングリと呼ばれる。堅果の先には3つに割れたメシベの先（花柱）の形が残っている。ドングリが着いているお椀（殻斗）は花序の付け根にあった総苞が変化したもので、カシ類では縞模様になる。ドングリにつきものの殻斗は、お皿とか座布団と呼ばれるが、上下を逆さまにしてドングリ君の帽子と見ることもある。（埴田）

（No.72 2002.10.21 掲載）

Quercus glauca Thunb. ex Murray (Fagaceae)

Evergreen tree, dominant in early stage of secondary succession, prefer to sunny poor site, in warm-temperate zone of east Asia.